

ほっこりひろば・ほっこりひろば実行委員会

目指す地域像 2 基本的な考え方 2 の実際事例

資料No.1-3



[経過]

東光圏域の第2層協議体で「高齢者・障がいのある方など、どのような人でも通える居場所の必要性」について地域住民や専門職から意見が挙がり、通いの場や居場所が少ない地区で福祉事業所を会場とした「ほっこりひろば」を令和7年1月にプレオープンした。令和7年度から実行委員会を作り、企画・運営を行っている。

[メンバー]

- ・地域住民（ボランティア、民生委員、市民委員会、地区社協）
- ・有限会社ほほえみ・東光地域包括支援センター
- ・旭川市社会福祉協議会

[目的]

- ・地域住民の閉じこもり防止
- ・どのような方でも通うことができる居場所の提供

[内容]

- ・前半30分 音楽体操
- ・後半1時間半程度 自由時間 交流、ゲーム、読書、映画鑑賞など

グリーンスマイル（第2層協議体）

目指す地域像2 基本的な考え方3の実際事例

[経過]

平成29年から、“緑が丘を笑顔にする活動を話合う場”として実施。話合いからは、買い物支援バスや多世代交流イベント、学習支援の場等、様々な取組が生まれている。

[メンバー]

緑が丘地域住民、ボランティア、学生、保育所、学校、福祉事業所、商店会、地区社協、市民委員会、民生委員、まち協等

[目的]

緑が丘がより住みやすい地域になることを目指して、緑が丘地域の住民・ボランティア・関係機関が集まり、地域課題解決に向けた取組や緑が丘を笑顔にする活動を話合うことを目的に開催

[内容]

グループワークによる話し合いを中心に、参加者間で意見交換を行い、緑が丘に不足していることや良いところ等の情報を共有しながら、必要な取組を検討している。直近では緑が丘地域の良いところとして挙がった“学生や教育機関が多い”“医療や福祉が充実している”という点を活かして、学生によるスマートフォン相談会及び、医療福祉分野を中心とした職業体験の取組を実施した。

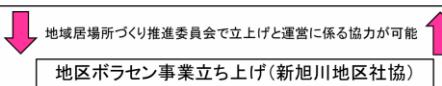


新旭川地区社会福祉協議会 地区ボランティアセンターの設置に向けた取組

目指す地域像4 基本的な考え方2の実際事例

[経過]

新旭川地区には地域居場所づくり推進委員会がある！！
○委員のメンバー構成は…
「新旭川地区市民委員会」、「新旭川地区民生委員児童委員」
「新旭川地区社会福祉協議会」、「社会福祉法人」、「福祉事業所(障害・高齢:4事業所)」、「新旭川・永山南地域包括支援センター」、「地域まるごと支援員」がメンバー。



検討を重ね、市民委員会の協力を得て「未来プロジェクト・生活困りごとアンケート」を実施したところ、258人から除雪やゴミ出しなどのボランティアに協力ができると回答があった。

この結果を協議体で情報共有し、メンバーが活動をバックアップする形となり、新旭川地区ボランティアセンターの立ち上げに向けた話し合いを行っている。

[メンバー]

地区社会福祉協議会、地区市民委員会、地区民生委員児童委員協議会、旭川市地域活動推進課、新旭川・永山南地域包括支援センター、ツクイ旭川東、地域活動支援センターあしすと、地域密着型特別養護老人ホーム新富宏生苑、緑ケアライフサービス

[目的]

- ・地区ボランティアセンターを設置し、「ちょっとした困りごと」をテーマに、除雪やゴミ出しなどの困りごとを、身近な地域で解決できる仕組みづくりを目指す。
- ・地縁組織だけに頼らない助け合いの仕組みづくりを目指す。

[内容]

- ・5つのブロックに分類し、地区ボランティアセンターを設置し、各ブロックにコーディネーター役を配置することを検討している。

